

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年6月12日

【四半期会計期間】 第112期第2四半期(自 2020年2月1日 至 2020年4月30日)

【会社名】 株式会社オハラ

【英訳名】 OHARA INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長執行役員 齋藤 弘和

【本店の所在の場所】 神奈川県相模原市中央区小山一丁目15番30号

【電話番号】 042-772-2101(代)

【事務連絡者氏名】 取締役専務執行役員 中島 隆

【最寄りの連絡場所】 神奈川県相模原市中央区小山一丁目15番30号

【電話番号】 042-772-2101(代)

【事務連絡者氏名】 取締役専務執行役員 中島 隆

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第111期 第2四半期 連結累計期間	第112期 第2四半期 連結累計期間	第111期
会計期間	自 2018年11月1日 至 2019年4月30日	自 2019年11月1日 至 2020年4月30日	自 2018年11月1日 至 2019年10月31日
売上高 (千円)	12,642,794	9,444,915	23,407,219
経常利益又は経常損失 ( ) (千円)	1,056,296	897,527	1,146,716
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失 ( ) (千円)	148,528	1,134,884	466,272
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	251,364	1,930,702	1,509,190
純資産額 (千円)	43,574,481	39,516,773	41,813,926
総資産額 (千円)	57,344,049	52,850,681	55,036,087
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額 ( ) (円)	6.10	46.63	19.16
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	76.0	74.8	76.0
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	882,329	838,324	1,927,731
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,458,000	712,012	335,051
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	65,046	735,202	1,013,232
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	10,303,719	11,933,696	11,235,316

回次	第111期 第2四半期 連結会計期間	第112期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2019年2月1日 至 2019年4月30日	自 2020年2月1日 至 2020年4月30日
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額 ( ) (円)	20.46	20.40

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第111期及び第111期第2四半期連結累計期間は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第112期第2四半期連結累計期間は1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( )の算定上の基礎となる普通株式の期中平均株式については、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式を控除対象の自己株式に含めて算出しております。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大は当社事業へ影響を与える可能性があります。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、期後半から新型コロナウイルス感染症が世界的に流行したことにより、アジア、米国、欧州の各地域の景気は、急速に悪化し、極めて厳しい状況となりました。

当社グループの光事業の関連市場では、デジタルカメラは、従前からの需要減少傾向に加えて、期後半からは新型コロナウイルス感染症の影響により、更に需要が減少しました。また、エレクトロニクス事業の関連市場では光通信向け硝材の需要は増加したものの、FPD露光装置向け硝材は弱含みで推移しました。

このような状況のもと、当第2四半期連結累計期間の業績は、次のとおりとなりました。

売上高は、光学機器用レンズ材の需要が大幅に減少したことやスマートフォン筐体向け硝材においてサプライチェーンの工程認定に遅延が生じたことなどから、9,444百万円（前年同期比25.3%減）となりました。

損益面では、売上総利益は、外出規制などにより生産設備の稼働が低下したことなどから、1,744百万円（同59.6%減）となりました。販売費及び一般管理費は、2,745百万円（同18.6%減）となり、営業損失は1,000百万円（前年同期は947百万円の営業利益）となりました。経常損失は、営業外収益として受取配当金を計上したことなどにより、897百万円（前年同期は1,056百万円の経常利益）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純損失は、1,134百万円（前年同期は148百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、前第2四半期連結会計期間より、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を変更しております。詳細については、（セグメント情報等）をご覧ください。

#### 光事業

当事業の売上高は、光学プレス品の販売が低調に推移したことなどから、5,301百万円（前年同期比29.2%減）となりました。損益面では、外出規制などによる生産設備の稼働率低下や子会社の清算に伴う追加費用を計上したことなどにより、営業損失は489百万円（前年同期は458百万円の営業利益）となりました。

#### エレクトロニクス事業

当事業の売上高は、光通信向けフィルター材の販売は増加したものの、FPD露光装置や宇宙・天文向け極低膨張ガラスセラミックスの販売が減少したほか、スマートフォン筐体向け耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス「ナノセラム<sup>TM</sup>」については、サプライチェーンの工程認定に遅延が生じたことなどにより、4,142百万円（前年同期比19.6%減）となりました。損益面では、生産設備の稼働率低下や棚卸資産の評価減を計上したことなどにより営業損失は511百万円（前年同期は488百万円の営業利益）となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は52,850百万円（前連結会計年度末比4.0%減）となりました。これは主に、今期より使用権資産を計上したものの、商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品が減少したことや投資有価証券が時価評価により減少したことなどによるものであります。

流動資産の残高は28,333百万円（同4.9%減）となりました。これは、商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品が減少したことなどによるものであります。

固定資産の残高は24,517百万円（同2.9%減）となりました。これは、使用権資産を計上したものの、投資有価証券が時価評価により減少したことなどが主な要因であります。

流動負債の残高は7,926百万円（同2.7%増）となりました。これは、資産除去債務が減少したものの、短期借入金が増加したことなどが主な要因であります。

固定負債の残高は5,407百万円（同1.8%減）となりました。これは、リース債務が増加したものの、長期借入金や繰延税金負債が減少したことなどが主な要因であります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は39,516百万円（同5.5%減）となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上したことにより利益剰余金が減少したことなどが主な要因であります。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ698百万円増加し、11,933百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は838百万円（前年同期比5.0%減）となりました。

これは、税金等調整前四半期純損失897百万円や仕入債務の減少による支出211百万円があったものの、たな卸資産の減少による収入1,123百万円があったことなどによるものであります。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は712百万円（前年同期比51.2%減）となりました。

これは、有形固定資産の取得による支出484百万円や資産除去債務の履行による支出277百万円があったことなどによるものであります。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は735百万円（前年同期は65百万円の収入）となりました。

これは、配当金の支払額366百万円があったものの、長期及び短期借入金の増加による収入（純額）1,262百万円があったことなどによるものであります。

## (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

## (5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における研究開発費の総額は、545百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	76,000,000
計	76,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年4月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年6月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	25,450,000	25,450,000	東京証券取引所 市場第一部	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	25,450,000	25,450,000	-	-

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年2月1日～ 2020年4月30日	-	25,450	-	5,855,000	-	7,930,598

(5) 【大株主の状況】

2020年4月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
セイコーホールディングス株式会社	東京都中央区銀座4-5-11	4,702	19.3
キヤノン株式会社	東京都大田区下丸子3-30-2	4,694	19.3
京橋起業株式会社	東京都中央区銀座5-6-1	4,688	19.3
三光起業株式会社	東京都中央区銀座5-6-1	1,651	6.8
株式会社トプコン	東京都板橋区蓮沼町75-1	673	2.8
セイコーインスツル株式会社	千葉県千葉市美浜区中瀬1-8	610	2.5
オリンパス株式会社	東京都八王子市石川町2951	400	1.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	219	0.9
CACEIS BANK LUXEMBOURG BRANCH/ UCITSCLIENTS (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	5 ALLEE SCHEFFER, L-2520 LUXEMBOURG (東京都中央区日本橋3-11-1)	203	0.8
J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 1300000 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済 営業部)	EUROPEAN BANK AND BUSINESS CENTER 6, ROUTE DE TREVES, L-2633 SENNINGERBERG, LUXEMBOURG (東京都港区港南2-15-1)	184	0.8
計	-	18,027	74.1

(注) 1. 上記のほか、自己株式が1,110千株あります。なお、自己株式には「株式給付信託(BBT)」の信託財産として資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式88千株が含まれております。

2. 上記所有株式のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。  
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 219千株

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年4月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,110,900	885	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 24,330,200	243,302	-
単元未満株式	普通株式 8,900	-	-
発行済株式総数	25,450,000	-	-
総株主の議決権	-	244,187	-

(注) 1. 「完全議決権株式(自己株式等)」欄の普通株式には、「株式給付信託(BBT)」の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式88,500株(議決権の数885個)が含まれております。なお、当該議決権の数885個は、議決権不行使となっております。

2. 「単元未満株式」欄には、当社保有の自己株式78株が含まれております。

【自己株式等】

2020年4月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社オハラ	神奈川県相模原市中央区 小山1-15-30	1,022,400	88,500	1,110,900	4.4
計	-	1,022,400	88,500	1,110,900	4.4

(注) 他人名義で所有している理由等

所有理由	名義人の氏名又は名称	名義人の住所
「株式給付信託(BBT)」制度の 信託財産として88,500株所有	資産管理サービス信託銀行 株式会社(信託E口)	東京都中央区晴海1-8-12 晴海トリトンスクエア タワーZ

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2020年2月1日から2020年4月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年11月1日から2020年4月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	11,507,306	11,933,696
受取手形及び売掛金	4,686,032	4,528,175
電子記録債権	1,429,235	1,321,973
商品及び製品	3,552,943	3,235,367
仕掛品	5,216,888	4,839,570
原材料及び貯蔵品	2,812,283	2,287,480
短期貸付金	173,000	-
その他	478,300	237,847
貸倒引当金	60,605	50,690
流動資産合計	29,795,385	28,333,421
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	13,804,314	13,793,136
減価償却累計額	8,398,527	8,574,104
建物及び構築物(純額)	5,405,786	5,219,031
機械装置及び運搬具	17,669,086	17,753,602
減価償却累計額	14,034,758	14,294,041
機械装置及び運搬具(純額)	3,634,328	3,459,561
工具、器具及び備品	11,767,649	11,838,498
減価償却累計額	2,748,751	2,874,674
工具、器具及び備品(純額)	9,018,897	8,963,824
土地	308,645	302,330
使用権資産	-	447,611
減価償却累計額	-	34,141
使用権資産(純額)	-	413,469
建設仮勘定	513,398	457,921
有形固定資産合計	18,881,057	18,816,137
無形固定資産		
投資その他の資産	392,959	416,239
投資有価証券	5,304,669	4,618,312
長期貸付金	-	87,000
退職給付に係る資産	82,090	101,082
繰延税金資産	253,461	239,225
その他	326,463	239,262
投資その他の資産合計	5,966,684	5,284,882
固定資産合計	25,240,701	24,517,259
資産合計	55,036,087	52,850,681

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年4月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,018,311	832,819
電子記録債務	303,221	231,988
短期借入金	2,334,907	3,804,499
リース債務	247,452	317,364
未払法人税等	321,330	99,035
賞与引当金	631,582	409,416
役員賞与引当金	60,287	29,172
資産除去債務	1,417,606	1,013,030
未払金	798,277	866,184
その他	584,768	323,366
流動負債合計	7,717,745	7,926,879
固定負債		
長期借入金	1,249,060	1,037,016
リース債務	1,001,680	1,261,632
繰延税金負債	1,415,068	1,263,828
退職給付に係る負債	1,448,186	1,455,489
役員株式給付引当金	70,210	75,526
環境対策引当金	24,040	24,040
資産除去債務	89,837	89,837
その他	206,330	199,657
固定負債合計	5,504,415	5,407,029
負債合計	13,222,160	13,333,908
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,855,000	5,855,000
資本剰余金	7,959,708	7,959,708
利益剰余金	28,207,633	26,706,335
自己株式	1,503,277	1,503,314
株主資本合計	40,519,064	39,017,729
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,900,894	1,350,112
為替換算調整勘定	179,620	102,564
退職給付に係る調整累計額	785,653	748,503
その他の包括利益累計額合計	1,294,862	499,043
純資産合計	41,813,926	39,516,773
負債純資産合計	55,036,087	52,850,681

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年11月1日 至2019年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年11月1日 至2020年4月30日)
売上高	12,642,794	9,444,915
売上原価	8,320,512	7,700,221
売上総利益	4,322,282	1,744,693
販売費及び一般管理費	3,374,616	2,745,645
営業利益又は営業損失( )	947,665	1,000,952
営業外収益		
受取利息	27,313	30,770
受取配当金	107,796	70,146
持分法による投資利益	15,068	-
その他	52,802	90,769
営業外収益合計	202,980	191,685
営業外費用		
支払利息	11,850	17,264
為替差損	68,225	56,804
持分法による投資損失	-	2,375
その他	14,273	11,815
営業外費用合計	94,349	88,260
経常利益又は経常損失( )	1,056,296	897,527
特別損失		
減損損失	44,856	-
関係会社整理損	162,855	-
特別損失合計	207,711	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	848,585	897,527
法人税等	700,056	237,357
四半期純利益又は四半期純損失( )	148,528	1,134,884
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )	148,528	1,134,884

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年11月1日 至2019年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年11月1日 至2020年4月30日)
四半期純利益又は四半期純損失( )	148,528	1,134,884
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	201,379	550,782
繰延ヘッジ損益	3,405	-
為替換算調整勘定	112,004	298,241
退職給付に係る調整額	18,751	37,149
持分法適用会社に対する持分相当額	1,885	16,056
その他の包括利益合計	102,835	795,818
四半期包括利益	251,364	1,930,702
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	251,364	1,930,702

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	848,585	897,527
減価償却費	792,513	883,342
減損損失	44,856	-
持分法による投資損益( は益)	15,068	2,375
退職給付に係る資産の増減額( は増加)	5,727	19,089
退職給付に係る負債の増減額( は減少)	33,085	9,073
役員株式給付引当金の増減額( は減少)	27,103	5,315
役員賞与引当金の増減額( は減少)	79,040	30,182
賞与引当金の増減額( は減少)	284,246	220,490
貸倒引当金の増減額( は減少)	19,528	7,514
環境対策引当金の増減額( は減少)	54,184	-
資産除去債務の増減額( は減少)	-	67,986
受取利息及び受取配当金	135,109	100,916
支払利息	11,850	17,264
為替差損益( は益)	48,096	32,415
関係会社整理損	162,855	-
固定資産売却損	10,495	8,945
固定資産売却損益( は益)	-	630
有価証券売却損益( は益)	1,638	-
売上債権の増減額( は増加)	1,595,570	216,404
たな卸資産の増減額( は増加)	896,996	1,123,693
仕入債務の増減額( は減少)	699,781	221,053
その他	204,663	227,221
小計	1,127,589	1,096,633
利息及び配当金の受取額	134,285	100,316
利息の支払額	11,292	17,718
保険金の受取額	61,424	69,554
法人税等の支払額	429,677	410,461
営業活動によるキャッシュ・フロー	882,329	838,324
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	467,497	273,494
定期預金の払戻による収入	566,152	544,770
投資有価証券の取得による支出	-	100,000
有形固定資産の取得による支出	1,480,517	484,482
有形固定資産の売却による収入	-	630
無形固定資産の取得による支出	52,153	172,588
長期貸付金の回収による収入	-	86,000
資産除去債務の履行による支出	-	277,913
その他	23,985	34,933
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,458,000	712,012

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	550,000	1,490,000
長期借入れによる収入	200,000	300,000
長期借入金の返済による支出	237,637	527,395
自己株式の取得による支出	-	37
セール・アンド・リースバックによる収入	389,565	-
割賦債務の返済による支出	107,392	160,583
配当金の支払額	729,489	366,781
財務活動によるキャッシュ・フロー	65,046	735,202
現金及び現金同等物に係る換算差額	63,940	163,134
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	574,564	698,380
現金及び現金同等物の期首残高	10,878,283	11,235,316
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,303,719	11,933,696

## 【注記事項】

(会計方針の変更)

(IFRS第16号「リース」の適用)

当社グループのIFRS適用連結子会社は、第1四半期連結会計期間よりIFRS第16号「リース」を適用しております。

その結果、当第2四半期連結会計期間の四半期連結貸借対照表において有形固定資産の「使用権資産」が413,469千円、流動負債の「リース債務」が56,161千円及び固定負債の「リース債務」が297,514千円増加しております。また、従来投資その他の資産の「その他」に含めて記載しておりました土地使用権61,544千円につきましては、第1四半期連結会計期間より「使用権資産」に振替えております。なお、この変更による当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

IFRS第16号の適用にあたっては、経過措置で認められている、適用開始による累積的影響額を適用開始日に認識する方法を採用しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症による影響)

新型コロナウイルス感染症による影響は、経済活動の回復までに相応の時間を要するものと思われま

す。現時点で入手可能な情報をもとに、当第2四半期連結累計期間における会計上の見積り(繰延税金資産の回収可能性、固定資産の減損会計の適用等)については、第3四半期(5月～7月)を底として、第4四半期(8月～10月)にかけて徐々に上向くことを前提とした業績予測数値により実施しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)
給与手当	649,399千円	625,987千円
賞与引当金繰入額	174,261	122,004
役員賞与引当金繰入額	31,260	28,582
役員株式給付引当金繰入額	43,237	5,315
退職給付費用	60,994	71,860
貸倒引当金繰入額	19,528	7,514
研究開発費	466,844	545,402

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)
現金及び預金勘定	10,471,207千円	11,933,696千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	167,488	-
現金及び現金同等物	10,303,719	11,933,696

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)

1. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年1月30日 定時株主総会	普通株式	731,896	30	2018年10月31日	2019年1月31日	利益剰余金

(注) 2019年1月30日定時株主総会の決議による配当金の総額には、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金2,133千円が含まれております。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)

1. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年1月30日 定時株主総会	普通株式	366,413	15	2019年10月31日	2020年1月31日	利益剰余金

(注) 2020年1月30日定時株主総会の決議による配当金の総額には、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金1,327千円が含まれております。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	光事業	エレクトロニクス事業	合計 (注)
売上高			
(1) 外部顧客への売上高	7,488,562	5,154,232	12,642,794
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	7,488,562	5,154,232	12,642,794
セグメント利益	458,679	488,985	947,665

(注) セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

前第2四半期連結累計期間において計上した減損損失44,856千円は、光事業セグメントに係るものであります。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	光事業	エレクトロニクス事業	合計 (注)
売上高			
(1) 外部顧客への売上高	5,301,946	4,142,968	9,444,915
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	5,301,946	4,142,968	9,444,915
セグメント損失( )	489,233	511,718	1,000,952

(注) セグメント損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(事業セグメントの利益又は損失の測定方法の変更)

前第2四半期連結会計期間より、組織変更に伴い、報告セグメント別の経営成績をより適切に反映させるため、一部の費用の配賦方法を各セグメントの実態に合った合理的な配賦基準に基づき配賦する方法に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の利益又は損失の測定方法に基づき作成したものを記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( )	6円10銭	46円63銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額(千円)	148,528	1,134,884
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失金額( )(千円)	148,528	1,134,884
普通株式の期中平均株式数(株)	24,330,517	24,339,060

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、前第2四半期連結累計期間は潜在株式が存在しないため、当第2四半期連結累計期間は1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 株主資本において自己株式として計上されている資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社の株式は、1株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前第2四半期連結累計期間85,227株、当第2四半期連結累計期間88,500株)。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年6月11日

株式会社オハラ  
取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 佐 山 正 則 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 中 野 敦 夫 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 白 田 賢 太 郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社オハラの2019年11月1日から2020年10月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年2月1日から2020年4月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年11月1日から2020年4月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社オハラ及び連結子会社の2020年4月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。